

# 庁舎ドアに銅繊維シート

## 地元産品でコロナ対策

桐生市が設置開始

桐生市は4日から、群馬大学発のベンチャー企業が商品化した桐生市内の業者などが製造する抗菌・抗ウイルス効果のある銅繊維シートを、同市役所本

庁舎(織姫町)内のドアなどに設置し始めた。同日はまず同庁舎本館1階の赤ちゃんの授乳やおむつ替えができるスペース「赤ちゃん

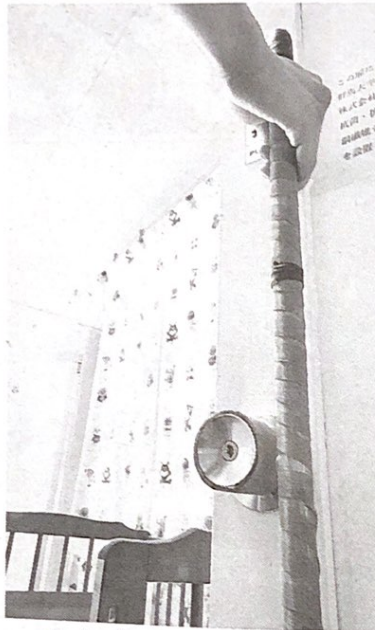
の駅」のドア2カ所と、同館1〜4階男女トイレのドア内側取っ手8カ所の計10カ所。市が既決予算で同

シートは生地1枚(横1.23m、縦5.5m)を購入し、必要な分だけ切

って各取っ手に巻き付けた。今後も庁舎内で多くの来庁者や職員が触る場所に設置する。「GUD(グッド)シ

ート」と名付けた銅繊維シートは、群大大学院理工学府の板橋英之教授が会長を務めるベンチャー企業「グッドアイ」(桐生市天神町)が開発。銅箔(はく)でコーティングした繊維に可視光応答型の光触媒(二酸化チタン)を塗

布したものだ。桐生市出身の山田徹社長が営む電線用導体製造の明清産業(前橋市)が銅箔糸を作り、服地メーカーの須裁(桐生市東、須永康弘社長)が織る。商品は朝倉染布(同市浜松町、朝倉剛太郎社長)が販売している。商品の問い合わせは朝倉染布のメールアドレス(info@asakura-senpu.co.jp)へ。



桐生市役所本館1階の「赤ちゃんの駅」のドアの取っ手に設置された銅繊維シート



桐生市役所本館トイレのドア内側の取っ手に設置された銅繊維シート

### 新型「コロナ」感染者の個人情報提供

### 3日付で県と覚書

桐生市議会 一般質問

みどりの市議会(大澤映男議長、定数18)定例会は5日午前、本会議を再開した。新型「

コロナ」の市内陽性患者が4月に判明した際、県から十分な情報が寄せられなかった

ことを踏まえ、須藤昭男市長は県との間で情報提供についての覚書を3日付で締結したこ

とを明らかにした。須藤市長は市内陽性患者について当時、県から公式発表以外の情報が得られなかったのを受け、「市民への注意喚起や感染防止の具体的な対策を講じる必要がある」と、県に詳細な情報開示を求めてき